

平成20年度事業報告



社団法人 日本キャンプ協会

社団法人日本キャンプ協会平成20年度事業報告

- 目次 -

平成20年度 事業総括	1
平成20年度事業報告	
1) キャンプの普及サービスに関する事業	3
2) キャンプの安全管理に関する事業	7
3) 指導者養成に関する事業	9
4) 調査研究に関する事業	12
5) 国際交流に関する事業	14
6) 情報サービスに関する事業	15
7) キャンプにおける諸基準の整備・評価等に関する事業	16
8) 出版に関する事業	17
9) 朝霧野外活動センターの運営	17
10) 各種団体等への協力・共催・後援	19
11) 会議の開催	20
CAMPING AWARD 2008 受賞者	21
社団法人日本キャンプ協会平成20・21年度役員	23
社団法人日本キャンプ協会平成20・21年度専門委員	23
都道府県キャンプ協会一覧(平成20年度)	25

平成 20 年度 事業総括

平成 20 年度は農薬入り餃子に端を発した食の安全の問題、ガソリン価格の乱高下、スポーツ選手などの薬物・大麻汚染、秋葉原無差別殺傷事件や元厚生事務次官夫妻の殺人事件など、私たちの生活の中にある不安定なものが露わになってきた感のある一年でした。

しかし一方で、喜ばしい出来事の多い一年でもありました。北京オリンピックでの水泳、女子レスリング、柔道、女子ソフトボールの選手の期待通りの活躍に加え、フェンシングや陸上競技の男子 400m リレーでの入賞は熱い興奮を与えてくれました。また、4 名の日本人が同時にノーベル賞を受賞するなど、快挙と言うに相応しい人々の頑張りを喜ぶ事が出来たことは幸いでした。

そして、日本キャンプ協会にとっては 45 番目の支部協会となる「山梨県キャンプ協会」が 3 月 11 日に設立されたことも大きな喜びでありました。

前年に改定された学習指導要領とリンクするように、文部科学省が「次代を担う自立した青少年の育成を図る目的で、小学校における長期自然体験活動の指導者養成等必要な支援に取り組むとともに、青少年の様々な課題に対応した体験活動を充実するため、地域における経験豊かな人材や施設の協力を得て、青少年の課題に対応した自然体験や生活体験等の体験活動の在り方を検討・実証するとともに、効果について把握し、その成果や課題を全国に普及する」という目的で開始した「青少年体験活動総合プラン」に呼応して、本協会でも指導者養成を行いました。全国の小学校の自然体験活動を支援する指導者養成のプロジェクトは、この年度の大きなトピックスと言わなければなりません。

「青少年体験活動総合プラン」では、平成 20 年度をスタートとして 5 年間に全国で 10 万人の自然体験活動指導者養成の計画があり、初年度は全国で 16 の団体が 155 の講座を設けてその養成を始めました。本協会ではネットワークを縦横に活用し、全国 7 会場で 222 名の参加者を集めて全体指導者の養成を実施しました。

この養成講習会にはまだ確定していないいくつかの課題が残されたままになっていますが、従来の指導者資格を持っている方々も参加して、新しい情報や知識の再確認が出来たことは大変意義深いことでした。

前年度から再開された「キャンプアカデミー」は、東京と大阪の 2 会場で全 5 回開催されました。社会が刻々と変化していく中で、キャンプ指導者が新たに、あるいは再び学ぶ必要があることをテーマに取り上げ、熱心な学びの場として多くの参加者を集めました。「キャンプアカデミー」の開催が多くの人々にもっと学びを深めたいというきっかけを提供したとすれば、これもまた意味の大きいものであったと言えることができるでしょう。



野外活動・自然体験活動における社会の関心の高まりは行政の施策の中にも反映され、特に指導者の養成と資質の向上はひとつの課題となっています。しかし、近年の本協会の指導者養成は必ずしも十分な成果を上げられていません。この年度はキャンプ指導者の基本的資格である「キャンプインストラクター」を取得する人が 5,000 名に達しないという結果に終わりました。いわゆる 18 歳人口の減少や長引く景気低迷の影響も一因であると考えられますが、キャンプムーブメントを支えていくのは人であるという認識に改めて立って、十分な対策を講じなければならないと考えています。

本協会では、一般の人々のアウトドアの安全に対する意識を啓発するために、7月第3日曜日を「キャンプ安全の日」と定めています。そのキャンペーンの一環として「キャンプ安全標語」の募集をしていますが、この年度は 2,618 件の応募があり「キャンプには持って行かない慣れ・油断」が最優秀作品に選ばれました。また、野外での安全に関する「アウトドアセーフティーハンドブック」を作成し、全国 29 都道府県 264 校の小中学校の児童・生徒に約 45,000 冊を直接手渡す活動も行いました。

指定管理 2 年目を迎えた静岡県立朝霧野外活動センターでは、1 年目の様々な気付きを踏まえ、随所に日本キャンプ協会グループとしての独自色を出すことを心がけて運営しました。

この年度からの新たな取り組みとしては、地域・大学等との連携（景観整備事業への協力、共同研究、大学院実習の受入）や新プログラムの導入（OL in 朝霧、スケートキャンプ、ホッとキャンプ等）を行いました。結果として、「静岡県立朝霧野外活動センター外部評価委員会」からも前年度より一段高い評価を得ることが出来ました。

平成 20 年度は必ずしも順風満帆に歩みを続けられた訳ではありませんでしたが、様々な課題に取り組み、キャンプの普及と振興のために事業をすすめることが出来たことを感謝申し上げます。

そして、10 月にカナダで行われた第 8 回国際キャンプ会議において、酒井哲雄名誉会長がキャンプの国際交流に功績のあった人に贈られる「Abbott Fenn Druzhba 賞」を受賞されたことを共に喜び、次の年度もキャンプの活動がしっかりと人々の中に根付き広がっていくことが出来るよう、努力を続けて参ります。今後も、皆様のご理解とご支援をお願いいたします。



自然体験活動青年ミーティング 2008

平成 20 年度 事業報告

1. キャンプの普及サービスに関する事業

キャンプが本来的に持っている「人の成長に及ぼす影響力」を明らかにし、広く社会に向けてアピールすること、また、多くの人々がキャンプを理解し、キャンプを楽しむ土壌を醸成していくことが普及サービスの使命である。

そのために、それぞれのキャンプが今という時代に合った内容を保持し、そのキャンプを運営する指導者が常に新しい知識と情報を持ちながら、広く社会貢献の役割を果たすことが出来るよう以下の事業を展開した。

(1) 第 18 回全国キャンプ大会 in ながさきの開催

第 18 回全国キャンプ大会は設立 10 周年を迎えた長崎県キャンプ協会が主管し、国立諫早青少年自然の家を主会場に開催された。雲仙普賢岳の噴火の跡が示す自然の脅威や有明海で起こっている人と自然のやりとりを実際に肌で感じ、環境について貴重な学びをする機会となった。また、全国のキャンプ指導者やキャンプ愛好者が一堂に会し、各地で行われているプログラムを相互に紹介しあう機会が持たれたことは、今後のキャンプに新しいアイディアを加えるための良い刺激となった。

期 日：11 月 1 日（土）～3 日（祝）
会 場：国立諫早青少年自然の家（長崎県諫早市）
主 催：（社）日本キャンプ協会
主 管：長崎県キャンプ協会
後 援：文部科学省・長崎県・長崎県教育委員会・国立諫早青少年自然の家
長崎市・佐世保市・島原市・諫早市・雲仙市及び各教育委員会
協 力：九州・沖縄ブロックキャンプ協会・長崎県ネイチャーゲーム協会
協 賛：（株）小川テント
参 加 者：183 名（うちスタッフ 54 名）
基調講演：「小さな命を撮る」 講師 栗林 慧氏（生物生態写真家）
内 容：CAMPING AWARD 2008 贈呈式・情報交換会
フリーチョイスプログラム：島原散策・雲仙登山・長崎ばさるこう・ハウステンボス
自由参加プログラム：ネイチャーゲーム・自然探求ウォークラリー・クラフト
諫早ロープスコース・MTBサイクリング
全国遊びひろば：リンゴの木でペンダント（北海道・東北ブロック）
板返しを作ろう（関東ブロック）
ウッドクラフト（中部・北陸ブロック）
キンボール（近畿ブロック）
スカイフラワー（中国・四国ブロック）
凧づくり・ペットボトル風車（九州ブロック）



第 18 回全国キャンプ大会スタッフ



全国キャンプ大会・雲仙登山

(2) 自然体験活動青年ミーティング 2008 の実施

自然体験活動における若い指導者の育成は喫緊の課題である。どこかで過去に自然体験活動に触れ、「もっと体験を深めたい」「同じ思いを持つ人々とのつながりを持ちたい」と思っている青年たちを募り、自主的な学びの機会を提供することは、我が国の今後の自然体験活動の拡大と浸透に大きな意味のあることである。今年度は8名のボランティアな実行委員によって企画・運営がなされ、朝霧野外活動センターで実施された。（「子どもゆめ基金」助成対象事業）

期 日：9月20日（土）～9月22日（月）
会 場：静岡県立朝霧野外活動センター（静岡県富士宮市）
主 催：（社）日本キャンプ協会 自然体験活動青年ミーティング 2008 実行委員会
後 援：（財）ボーイスカウト日本連盟・（社）ガールスカウト日本連盟・（財）日本YMCA同盟
東京YWCA・（社）日本環境教育フォーラム・（NPO）自然体験活動推進協議会（CONE）
日本アウトドアネットワーク（JON）・日本野外教育学会
参 加 者：65名 ほかに講師13名・実行委員8名・運営スタッフ7名
内 容：ワークショップ
心と身体を和らげよう!! - アイスブレイクって?! - ・朝霧高原溶岩洞窟探検
森の遊び場づくり - 自然の中でめっちゃ遊ぼう - ・野菜づくしのずくなしプレート
『やって』みよう! - 野外教育入門【実技編】【理論編】 - ・夢をかなえる足湯をつくろう!
グループをチームに変える「魔法のゲーム」・OUTDOOR FIRST AID - 野外救急法 -
地図と磁石のスポーツ「オリエンテーリング」・毛無山登山
Let's Challenge Climbing・MTBでサイクリング - トレイルライドで森林浴 -
実行委員によるフリーチョイスプログラム
全員プログラム 青年の主張

(3) 第8回キャンプ場ミーティングの開催

「キャンプ場からアウトドアの未来を考える」を基本コンセプトに、キャンプ場・野外活動施設関係者が集い、講演や討議、情報交換を通じて、キャンプ場・野外活動施設運営のノウハウの共有化を図る機会として実施した。今回は「キャンプ場のセルフチェック」をテーマに、キャンプ場の自己点検について学んだ。

期 日：6月16日（月）～6月17日（火）
会 場：静岡県立朝霧野外活動センター（静岡県富士宮市）
主 催：（社）日本キャンプ協会
参 加 者：14名



アイスブレイク中です（青年ミーティング）



活発な討議が続く（青年ミーティング）

(4) デイキャンプ・週末子どもクラブの普及

子どもたちに身近な地域での自然体験活動の機会を提供するために、「週末子どもクラブ」をテーマにしたキャンプの支援を行った。

対 象：日本キャンプ協会の個人会員・団体会員

内 容：原則として年度内に実施、完了するキャンプで下記に該当するもの。

- ・ 主に小中学生をも対象とした 20 人以上のメンバーを有する
- ・ 週末を利用して日帰りもしくは 1 泊程度の短期の野外活動を行う
- ・ 活動はおおむね年間 4 回以上、定期的実施される

支援決定事業は、次の 6 件であった。

申請者氏名（支部）	キャンプの名称	支援額
高 野 佳 郎（岡山県）	旭川水辺のクラブ	20 万円
伊藤枝里奈（宮城県）	遠刈田森のクラブ	20 万円
岐阜県キャンプ協会	ガキンチョ！クラブ	5 万円
愛媛県キャンプ協会	まつやま「野あそびクラブ」2008	10 万円
豊 留 雄 二（岩手県）	コドモとオトナの自然遊びクラブ	10 万円
伊 藤 憲 栄（鳥取県）	週末子どもクラブ 遊遊ひろば	10 万円

(5) キャンプアカデミーの開催

キャンプにはさまざまなものに活用できる要素がたくさんある。キャンプアカデミーは、キャンプそのものやその周辺領域にあるものを取り扱う研修会であり、東京と大阪で全 5 回実施した。

東京会場「その道のプロに聞く」と題し、「話すこと、聴くこと」をテーマについて学んだ。

期 日：2 月 20 日（金）【第 1 回】 2 月 27 日（金）【第 2 回】

内 容：第 1 回「アナウンサーの「話す」技術」 講師：田中浩史氏（NHK 放送文化研究所）
第 2 回「キャンプ指導者の「聴く」技術」 講師：森園忠勝氏（大阪人間科学大学）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加者：59 名

大阪会場「発達障がいについて考える」をテーマに大阪府キャンプ協会のキャンプサロンと共催。

期 日：10 月 27 日（月）【第 1 回】 11 月 17 日（月）【第 2 回】 12 月 8 日（月）【第 3 回】

内 容：第 1 回「発達障がいとは～その種類や特徴～」講師：郭 麗月氏（児童精神科医）
第 2 回「発達障がい児の理解～キャンプでどう受容れるか～」講師：石田易司氏（桃山学院大学）
第 3 回「発達障がい児と共に～キャンプ活動での事例から～」

（事例報告）石田 易司氏（NPO キャンピズ）金山 好美氏（奈良 Y M C A）

伊藤弥生子氏（NPO チャイルズ）（進行）神崎 清一氏（京都 Y M C A）



「話す」技術を語る田中浩史氏（東京会場）



発達障がいについて熱心に学ぶ（大阪会場）

- (6) 公共団体、関係団体、企業等の行うキャンプ・野外活動の事業受託および後援・協力
キャンプ、野外活動の普及振興に関する事業の事業受託および後援、協力、協賛を行った。

事業の運営受託

Jリーグ サンフレッチェ広島スプリングスクール 2008 (サンフレッチェ広島主催)

期 日：4月2日(水)～4日(金)

会 場：広島市立似島臨海少年自然の家

内 容：グループ遠征・キャンプファイアー・野外料理ほか

参加者：サンフレッチェ広島ジュニアチーム スクール生 56 名・コーチ 11 名

協 力：広島県キャンプ協会

Jリーグ・アカデミーフェスティバルへの協力

会 場	期 日	参加チーム	参加人数	内 容
きじま平	8月4日～6日	26チーム	約300名	中伊豆・きじま平会場では、A S E やキャンプファイアーなどのプログラムの提供。仙台・愛媛・岐阜会場では、生活場面も含めたプログラムを提供
仙 台	8月11日～13日	7チーム	約100名	
愛 媛	8月20日～22日	7チーム	約100名	
中伊豆	8月20日～22日	7チーム	約150名	
岐 阜	8月25日～27日	7チーム	約150名	

事業の協力

あしがらシニアキャンプへの協力

期 日：10月4日(土)～5日(日)

会 場：神奈川県立足柄ふれあいの村(神奈川県南足柄市)

主 催：あしがらシニアキャンプ実行委員会

参加者：約150名

内 容：実行委員としての参加・事前講習会の講師(7/23・8/19)

Jリーグオールスターサッカーへの協力

オールスターの前座試合に行われる U-11 (小学校5年生) の K リーグ (韓国) 選抜と J リーグ選抜の子どもたちの交流プログラムを指導した。 【8/1 新高輪プリンスホテル(東京都)】

JOC (日本オリンピック委員会) への協力

エリートアカデミーに参加する子どもたちへのコミュニケーションプログラム、選手のセカンドキャリアに対応したセミナーでのアイスブレイクプログラムなどを提供した。

【6/20・7/4 ナショナルトレーニングセンター(東京都)】

日刊スポーツファミリーキャンプへの協力

日刊スポーツが群馬県で開催したファミリーキャンプ事業に協賛し、ファミリーで体験できるクラフトプログラムを提供した。 【7/19～21 スイートグラスオートキャンプ場(群馬県)】



Jリーグのジュニアチームの子どもたち



日刊スポーツのファミリーキャンプ

2. キャンプの安全管理に関する事業

野外活動中に起こりうる事故や傷病をあらかじめ予測し備えること（リスクマネジメント）は当然、指導者に求められるものであるが、指導者個人の学習では学べる限界がある。安全管理能力は、過去の事例を知り、その傾向を学んだり、体験者の話を聞き模擬体験したりすることによってより向上していく。

指導者同士が集い、安全管理能力向上のための学習が広く行われ、また一般のキャンプ愛好家たちへリスクマネジメントの考え方が広められ、安全管理に関する情報が常に提供される状態が作られていくことを目指して、以下の事業を実施した。

(1) 安全に関する情報、事故事例の収集・分析・公開

キャンプ、野外活動、自然体験活動等で発生した事故やケガ、ヒヤリハット体験等の情報を全国から収集し集計した。（約 180 名のオフィシャルレポーターに対し夏季キャンプ時のアンケートを実施）

(2) 安全思想の普及（キャンペーン）

キャンペーン活動の具体化

都道府県協会や団体の協力を得て、キャンプ安全の日（7 月第 3 日曜日）を中心に冊子の配布、安全講習会等を実施し、安全で楽しいキャンプについて考えてもらうきっかけとした。

また、恒例の「安全なキャンプのための標語」を募集し、一般の部に 2,111 件、少年少女の部に 507 件の標語が寄せられた。審査の結果、一般の部は小椋正人さん（東京都）の「キャンプには持って行かない慣れ・油断」、少年少女の部は塩澤岳さん（東京都）の「楽しさを裏で支える安全の手」が最優秀作品とされた。なお、小椋さんの作品は 2009 年度の会員証（裏面）にも刷り込まれている。

新冊子の作成と配布

「安全なキャンプのために パート 9 ～役に立つファーストエイド～」【B5 版 20 ページ】を 8,000 部作成し、広くキャンプ指導者や愛好者等に配布した。

内 容：応急処置の基本・野外活動中に起こりうるケガの対処法・心肺停止状態になった患者への処置方法・AED 操作方法

(3) キャンプ安全マニュアルの作成の検討

キャンプ指導者の安全意識を底上げするために、安全な野外活動を行うために必要な最低限の情報を集めた、「指導者として初めてキャンプを企画する人」のための基本マニュアルを平成 21 年度に作成することを決定し、検討を重ねた。



安全なキャンプのために パート 9



リスクマネジメントセミナー(大阪)

(4) 野外活動指導者のためのリスクマネジメントセミナーの開催

野外活動の各フィールドでの実践的な研修を通して、野外活動指導者等の安全対策面での資質向上を目的に、大阪・福岡の2会場で実施した。大阪会場は昨年に引き続き、財団法人関西テレビ青少年育成事業団との共催で行なわれた。

【福岡会場】

期 日：7月5日（土）～6日（日）
会 場：国立夜須高原青少年自然の家（福岡県朝倉郡）
主 催：（社）日本キャンプ協会
主 管：福岡県キャンプ協会
後 援：コールマンジャパン（株）・（株）ロゴスコポーレーション・（株）ユニフレーム
協 力：佐賀県キャンプ協会
参加者：30名
内 容：気象災害と安全を考える・キャンプの安全を考える・軍手&テント燃焼実験
キャンプ用品の安全・CPR&AED・森に潜む危険・幼児キャンプの意義と安全
リスクマネジメントエクササイズ体験

【大阪会場】

期 日：1月31日（土）・2月1日（日）
会 場：大阪府立青少年会館（大阪市中央区）
主 催：（社）日本キャンプ協会・（財）関西テレビ青少年育成事業団
主 管：大阪府キャンプ協会
協 力：近畿ブロックキャンプ協会・（財）財団法人大阪府青少年活動財団
参加者：99名
内 容：はげしい気象変化の原因をさぐる・気象変化による野外活動の事故を検証する
リスクマネジメントエクササイズ体験・野外活動の安全グッズ紹介
キャンプカウンセリングの視点から見た心の安全・プログラム指導現場に見る安全の目
安全なキャンプのための対象者の理解とは・救急法まると体験
野外活動に必要な保険の知識

(5) 安全教育プログラムの普及

各地で行われたリスクマネジメントセミナーに出向き、参加者にリスクマネジメントエクササイズを体験してもらい、普及に努めた。



テントは燃えやすい？燃えにくい？（福岡会場）



RME（リスクマネジメントエクササイズ）で熱いやりとり（大阪会場）

3. 指導者養成に関する事業

平成 18 年度から施行している新指導者養成制度について評価を行い、受講要件などの一部見直しの検討を始めた（21 年度も継続して行う）。また、18 歳人口の減少などの理由により課程認定校で養成されるキャンプインストラクターの申請者数が減少傾向にあることから、資格制度の広報活動に力を注いだ。一方、文部科学省がすすめる小学校における長期自然体験活動を支援する指導者養成事業にも積極的に取り組み成果を得た。

(1) 指導者講習会の開催

キャンプインストラクター養成

（大学・短大・専門学校・社会教育団体等による養成 4,258 名 支部協会による養成 518 名）

キャンプディレクター2 級（プログラムディレクター）養成講習会（全国 6 ヶ所で開催）

会 場	日 程	受講者	場 所
福 島	9 月 13 日(土)～15 日(祝)	5 名	国立磐梯青少年交流の家
福 岡	9 月 20 日(土)～22 日(月)	3 名	国立夜須高原青少年自然の家
大 阪	10 月 17 日(金)～19 日(日)	3 名	大阪府立総合青少年野外活動センター
山 口	10 月 24 日(金)～26 日(日)	2 名	宇部市青年の家
千 葉	1 月 10 日(土)～12 日(祝)	10 名	千葉市少年自然の家
愛 知	2 月 6 日(土)～8 日(日)	10 名	愛知県美浜少年自然の家

キャンプディレクター2 級（マネジメントディレクター）養成講習会（全国 4 ヶ所で開催）

会 場	日 程	受講者	場 所
東 京	7 月 5 日(土)・6 日(日)	7 名	国立オリンピック記念青少年総合センター
福 岡	9 月 20 日(土)～21 日(日)	6 名	国立夜須高原青少年自然の家
大 阪	10 月 18 日(土)～19 日(日)	6 名	大阪府立総合青少年野外活動センター
愛 知	11 月 29 日(土)・30 日(日)	10 名	熱田神宮文化殿会議室

キャンプディレクター1 級養成講習会（全国 2 会場で開催）

会 場	日 程	受講者	場 所
西日本	10 月 9 日(木)～13 日(祝)	9 名	大阪府立総合青少年野外活動センター
東日本	11 月 20 日(木)～24 日(祝)	15 名	静岡県立朝霧野外活動センター

キャンプディレクター1 級検定会（全国 2 会場で開催）

会 場	日 程	受検者	場 所
東日本	1 月 17 日(土)～18 日(日)	12 名	国立オリンピック記念青少年総合センター
西日本	1 月 24 日(土)～25 日(日)	11 名	大阪府立少年自然の家



キャンプディレクター養成講習会

(2)指導者の審査・認定

資格申請者の審査・認定

認 定 日	キャンプインストラクター		キャンプディレクター2級		キャンプディレクター1級	
	受験者	合格者	申請者	合格者	申請者	合格者
平成 20 年 6 月 3 日			15	15	6	6
10 月 1 日			13	13	1	1
11 月 13 日			15	15	-	-
平成 21 年 2 月 19 日			13	13	-	-
3 月 21 日			6	6	14	14
課程認定団体による養成分	4,910	4,910				
	4,910	4,910	62	62	21	21

指導者資格の更新

更 新 者 数	キャンプインストラクター	キャンプディレクター2級	キャンプディレクター1級
	11,609	2,301	1,141

課程認定団体の審査・認定

課程認定審査会を実施し、新規の課程認定団体の審査を行った。

審査会日程	団 体 名
6 月 23 日	大東文化大学スポーツ・健康科学部 埼玉学園大学 昭和女子大学 金沢星陵大学【以上 B 団体】 ラボ教育センター【以上 C 団体】

平成 20 年度課程認定団体数

A 団体	B 団体	C 団体
44	115	10

課程認定団体の連絡調整

課程認定団体(B 団体)の養成担当講師を対象に研修会を実施し、キャンプインストラクター養成事例の紹介、事務連絡、アンケート結果の発表等を行った。

開 催 日	場 所	参加校	参加者
5 月 24 日(土)	国立オリンピック記念青少年総合センター	24 校	31 名

認定証、資格章(バッジ)等の作成：指導者の認定に伴い、認定証、資格章、登録用紙を作成した。



キャンプディレクター養成講習会

(3)「青少年体験活動総合プラン」による自然体験活動指導者の養成

「次代を担う自立した青少年の育成を図るため、小学校における長期自然体験活動の指導者養成等必要な支援に取り組むとともに、青少年の様々な課題に対応した体験活動を充実するため、地域における経験豊かな人材や施設の協力を得て、青少年の課題に対応した自然体験や生活体験等の体験活動の在り方を検討・実証するとともに、効果について把握し、その成果や課題を全国に普及する」という文部科学省のプランに呼応して全国7会場で指導者養成を行った。

自然体験活動指導者養成講習会（文部科学省委託事業） 全国7会場で実施

会 場	日 程	受講者	場 所
福 島	9月13日(土)～15日(祝)	33名	国立磐梯青少年交流の家
福 岡	9月20日(土)～22日(月)	32名	国立夜須高原青少年自然の家
大 阪	10月17日(金)～19日(日)	29名	大阪府立総合青少年野外活動センター
山 口	10月24日(金)～26日(日)	26名	宇部市青年の家
静 岡	11月22日(土)～24日(祝)	42名	静岡県立朝霧野外活動センター
千 葉	1月10日(土)～12日(祝)	31名	千葉市少年自然の家
愛 知	2月6日(土)～8日(日)	29名	愛知県美浜少年自然の家

(4)平成20年度全国野外活動指導者研修会の共催

全国の野外活動の現場に立つ人々を対象とし、文部科学省・野外活動団体連絡協議会との共催で最新の技術や情報を発信する指導者研修会を実施した。

期 日：1月15日(木)～17日(土)

会 場：国立沖縄青少年交流の家

主 催：文部科学省・野外活動団体連絡協議会・沖縄県教育委員会・国立沖縄青少年交流の家

参加者：47名

(5)指導者養成講習会の受講要件や受講者確保の方策についての検討

指導者養成委員会にて検討をし、21年4月より受講要件の一部を変更した。

(21年度も引き続き検討を続ける)



自然体験指導者養成講習会

4. 調査研究に関する事業

国内外の各種調査や研究成果の情報を収集し、広く提供するという調査研究事業の役割を念頭に、今年度は各種調査結果の分析と Camp meeting in Japan (日本キャンプ会議) に重点を置き、以下の活動を行った。

(1) Camp meeting in Japan 2008 - 第12回日本キャンプ会議 -

国内外のキャンプの実践報告や研究発表を通して、情報の共有化、指導者の交流を促す機会として開催した。

期 日：5月24日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者：146名 発表者22名

内 容：キャンプの実践報告および研究発表

[口頭発表] 16題

●指定管理者団体における野外活動事業の参加者状況 ●民間野外教育活動団体におけるサービスマネジメントに関する将来予測研究 - その1 ●キャンプ参加費に関する保護者の意識 ●米国サマーキャンプの日課活動(実修) について - メイン州、キャンプ・オーアトカの場合 - ●知的障害児のキャンプ「ニコニコキャンプ」実践報告 ●ガンバレ! 能登 震災支援キャンプ報告 ●冬の陣と雪の吟 - 「雪のスゴイ! を体験しよう。冬の檜原湖キャンプ2008」 ●ばるばるキッズ2007 実践報告 - 平成19年度(社)日本キャンプ協会支援事業対象キャンプ報告 - ●日本の野外活動に対する中国の(小学 - 大学)男女学生の認知度 ●「社会力」を育成する教育プログラムの開発 - プロジェクトアドベンチャーの手法を応用して - ●連想法を用いたキャンプの効果測定の試み ●新入生オリエンテーションキャンプが大学生の仮想的有能感に及ぼす効果 ●ファミリーを対象としたイベント型事業「あいちキャンプフェスティバル」の実践報告 - 他団体との連携と運営のポイントに着目して - ●『若者自立支援事業「本当にやりたい!ことプロジェクト」実践報告』 ●サントリー・神戸YMCA共同プロジェクト - 余島プロジェクト - ●「読書」による観想的キャンプ生活 - 中村春二口訳「方丈記」の野外教育的価値に注目して -

[ポスター発表] 7題

●利用者アンケートにみる静岡県立朝霧野外活動センターの利用状況 ●地域住民への自然体験活動の提供に向けた大学におけるシステムづくり ●民間野外教育活動団体におけるサービスマネジメントに関する将来予測研究 - その2 ●自由回答からみる保護者のキャンプ参加費に対する意識 ●日本のキャンプスタンダードの開発に向けて - キャンプが青少年の成長に及ぼす効果 - ●日本のキャンプスタンダードの開発に向けて - プログラムと自然・生活環境に着目して - ●日本のキャンプスタンダードの開発に向けて - 参加者と指導者に着目して -



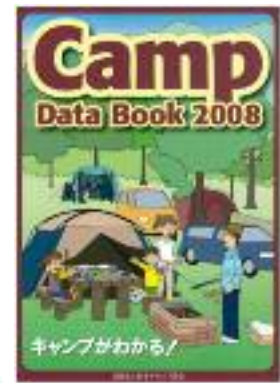
口頭発表を聴く(第12回日本キャンプ会議)



ポスター発表を見ての質疑応答

(2) 「キャンプデータブック 2008」の発行

平成 20 年度中に発表されたキャンプに関する研究成果やデータを
中心にとりまとめた「キャンプデータブック 2008」を発行した。
(3,000 部)



(3) 『キャンプ研究』の発行

国内外のキャンプ実践者や研究者の成果発表の
場として、本年度も継続して研究誌を発行した。

■ 第 12 巻第 1 号 (5 月 24 日発行・4,000 部)

< Camp meeting in Japan2008

- 第 12 回日本キャンプ会議特集号 >

■ 第 12 巻第 2 号 (9 月 30 日発行・2,000 部)

[実践報告]

- 幼児キャンプの実践
- キャンプを通じた地域づくりの試み
「あしがらシニアキャンプ」

■ 第 12 巻第 3 号 (1 月 30 日発行・2,000 部)

[実践報告]

- 子どものキャンプ参加費用に対する保護者の意識
- 不満足評価の視点に着目して -

[報 告]

- キャンプディレクター 2 級指導者の実態・意識調査に関する報告
- 第12回日本キャンプ会議全体会報告
～ みんなでつくるあしたのキャンプ (指導者編) ～



(4) 日本キャンプ協会会員の意識調査

昨年度実施した「キャンプディレクター 2 級指導者の実態・意識調査」の集計、分析を行い、その
結果報告を『キャンプ研究』第 12 巻第 3 号に掲載した。

● 山梨県キャンプ協会の設立

45 番目の支部協会として、山梨県キャンプ協会が設立され、3 月 11 日に山梨県ボラン
ティア・NPO センターで設立総会が行われた。

山梨県キャンプ協会は、YMCA、キープ協会、国際自然大学校、ガールスカウト、ボー
イスカウトなど、数多くの自然体験活動を通じた人づくりにかかわる団体、個人が協力し、
キャンプ普及のための事業展開を計画している。

山梨県の豊かな自然を生かしたさまざまな活動
が行われることが期待される。

おもな役員

会 長 川 村 協 平 (山梨大学教授)
副会長 大和田浩二 (山梨 YMCA 総主事)
岩 田 勉 (甲斐の国大和自然学校校長)
事務局長 佐間野昌資 (甲斐の国大和自然学校所長)



3 月 11 日に行われた設立総会の様子

5．国際交流に関する事業

日本キャンプ協会の国際交流事業は、アジア・オセアニア・キャンプ連盟（Asia Oceania Camping Fellowship / AOCF）ならびに国際キャンプ連盟（International Camping Fellowship / ICF）を通じた国際交流事業を中心に、世界のキャンプ文化の共有化を図る取り組みを行っている。

本年度はカナダで行われた第8回国際キャンプ会議参加ツアーの実施や、アメリカキャンプ協会全国大会日本人参加者へのサポートなどを通じて、会員に交流と学びの機会を提供した。

(1) 第8回国際キャンプ会議参加ツアーの実施

カナダ・ケベックシティで行われた第8回国際キャンプ会議（8th International Camping Congress）参加ツアーを実施し、14名が参加した。（第8回国際キャンプ会議日程は、10月4日（土）～7日（火）・世界26ヶ国から約600名が参加）ツアーでは会議の参加だけでなく、プレコングレス・ツアーにも合流し、ケベック州内の4ヶ所のキャンプ場を見学した。ツアー以外にも日本から12名が参加し、合わせて6件の研究発表を行った。

また、キャンプの国際交流に功績を残した人物に贈られる Abbot Fenn Druzhba 賞を酒井哲雄名誉会長が受賞し、授賞式が行われた。（佐藤初雄氏が代理受領）

期 日：9月30日（火）～10月9日（木）

参加者：14名

(2) アメリカキャンプ協会全国大会参加

フロリダ州オーランドで開催されたアメリカキャンプ協会全国大会へ事務局スタッフ1名が参加し、日本からの参加者のサポートを行った。（4名の日本人が参加）

期 日：2月17日（火）～20日（金）

場 所：アメリカ合衆国・フロリダ州オーランド

(3) アジア・オセアニア・キャンプ連盟事務局の運営

アジア・オセアニア・キャンプ連盟の事務局としてホームページを通じた情報提供や、次期アジア・オセアニア・キャンプ会議（2009年10月・台湾）の準備作業を行った。

また、香港キャンプ協会の研修の受け入れを行い、朝霧野外活動センターなど数か所の野外活動施設を案内するとともに、次期国際キャンプ会議ならびにアジア・オセアニア・キャンプ会議の実施についての話し合いを行った。



多数の分科会やキャンプ用品などの見本市が行われる（アメリカキャンプ協会全国大会）

6. 情報サービスに関する事業

本協会の事業内容やキャンプ・野外活動の動向、キャンプの教育的な意義等を伝えることに加え、新しいキャンプの技術やゲームの紹介など、日常のキャンプ活動に役立つ情報を多く発信することに努めた。また、ホームページの更新やメールマガジンの配信等 IT を利用しての情報伝達にも意を用いた。

(1) 会報「CAMPING」の発行

キャンプに関する情報の提供および会員相互の情報交換のための会報を隔月、年 6 回発行した。「キャンプ指導者として知っておきたい・考えてみたいことをわかりやすく」をコンセプトに紙面づくりを行った。

第 122 号	4 月 1 日	特集「キャンプと生きもの」	
第 123 号	6 月 1 日	特集「キャンプの安全」	
第 124 号	8 月 1 日	特集「キャンプカウンセリング」	
第 125 号	10 月 1 日	特集「ごはん最前線」	
第 126 号	12 月 1 日	特集「わくわく・どきどき」	
第 127 号	2 月 1 日	特集「キャンプネーム」	(各 25,000 部発行)

(2) IT を有効活用した情報発信

ホームページの充実 表示方法を変更してわかりやすいホームページを目指した。

メールマガジンの発行	B U C 情報や委員会等、新しい情報を配信した。			
第50号	4月25日	臨時号	5月9日	第51号 6月2日
第52号	6月30日	第53号	8月1日	第54号 10月27日
第55号	12月26日	第56号	1月30日	

(3) キャンプ・インフォメーションセンター

キャンプ協会の対外窓口として、キャンプに関するさまざまな相談に応じるとともに、キャンプの普及につながる資料の発行等を行った。

電話や電子メールによる相談に対応するほか、凸版印刷の運営する子育てサイト「こどもば」などマスコミの取材対応を行った。(年間受付相談 78 件)

小学生を対象とした「キャンプセーフティハンドブック」を作成し、全国 29 都道府県の 264 校に約 45,500 冊を配布した。

季節ごとの野外の遊びを紹介したアウトドアシーズンズブックを発行し、支部協会などを通じて配布した。(2 回 各 2,500 冊) 上記の は WOODS (高島株式会社) の協賛により実施した

(4) オフィシャルレポーターによる会員ニーズのマーケティング

「CAMPING」の内容を中心に年 6 回のモニタリングを行った。(172 名)



発行された「CAMPING」

7. キャンプにおける諸整備・評価等に関する事業

キャンプの活動の最先端を担う支部協会の働きが、自在な発想に基づいた多様で受容性の高いものであればあるほど、よい社会貢献を果たすことにつながると考えられる。従って、支部協会が本来持っている可能性を磨き、会員の力を集結することが出来れば地域のキャンプ活動は必ず活性化出来るという考えのもとに、今年度も現場主義に立った支部活動の支援を行った。

(1) 支部事務局担当者研修会の実施

「支部運営マニュアル」を作成し、事務局担当者を対象に研修会を行った。

(当初は全国3会場での実施を企画したが、参加希望者が少なかったので1回のみの実施となった)

期 日：1月15日(木)～17日(土)

会 場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)

参加者：14名

内 容：支部を担う人材のリクルートと養成

支部の事業や活動の広報の仕方

支部会計の実際

(2) BUCの承認

キャンプ指導者が基本的な知識を再確認すること、新しい学びや情報を入手することは、生きた指導をするために大変重要なことである。あわせて、指導者相互の顔の見える関係を作り出し、指導者間の信頼できるネットワークを広げてゆくことも必要なことである。各支部協会が行う各種事業について条件を満たすものにBUCの承認を行い、必要のある事業には実施のための支援(費用援助・人材援助)を行った。

年 度	BUC 開催回数	ハガキ登録者数	開催支部	備 考
18 年	91	773 人	35+1	BUC 実施回数には日本キャンプ協会実施のものを含む。(開催支部の欄の+1 は日本キャンプ協会を示す)
19 年	116	1,343 人	40+1	
20 年	123	1,534 人	39+1	

(3) キャンプ場の認定

「優良キャンプ場」「認定キャンプ場」の認定制度の周知を図るため、ホームページ上に記載し、登録されているキャンプ場の紹介を行った。

(4) キャンプ用品・用具の配備

安全で楽しいキャンプを普及するために、(財)日本宝くじ協会より助成を受け、全国の支部協会にキャンプ講習会、指導者研修、各種キャンプ、全国大会等に利用出来るテントの配布を行った。



(財)日本宝くじ協会からの助成で配備されたテント

8. 出版に関する事業

キャンプについての情報や技術を、できるだけ多くに人々に知らせることを目的にキャンプ関連書籍の出版計画を検討した。

(1) 「キャンプ指導者入門」の改訂

キャンプインストラクター養成講習会に使用する「キャンプ指導者入門」の改訂を行い、増刷した。

(2) 「キャンプディレクター必携」の改訂

キャンプディレクター養成講習会に使用する「キャンプディレクター必携」の改訂に向けた準備を行った。

(3) I S B Nコードの付記

日本図書コード管理センターへ申請した出版物のI S B Nコード管理を行った。

(4) 書籍の出版

学校教員のためのLet's try campingシリーズ『キャンプの積み木（運営編・指導編）』（仮称）の出版計画を検討した。

9. 朝霧野外活動センターの運営

(1) 指定管理者として2年目の管理運営

2年目を迎えた本年度は、施設運営の実態がほぼ把握できたことを踏まえ、日本キャンプ協会グループとしての独自色を打ち出し始めることが目標であった。「おもてなしの気持ち」で利用者を迎え、利用団体が実施するプログラムのサポート、利用のルールの一部改変、キャンプ場整備の促進、新規主催事業の実施など利用者の多様な要望にできる限り対応できるよう努めながら運営にあたった。また、指定管理3年目を見据え、アンケート調査等の実施により利用者のニーズの掘り起こしを実施した。

(2) 利用状況（前年度との比較）

2年次の利用者数目標は本館棟42,898人、キャンプ場19,940人以上となっており、キャンプ場において目標を達成することができなかったものの、前年度からは若干増加を見ることが出来た。

利用者数全体の7割近くは5月～10月に集中しており、5月期の利用については依然として需要が高い。課題であった11月～3月の閑散期利用に関しては、大学・サークル等の利用が増えたものの、学校・少年団体等の利用が落ち込んだために、全体としてはほぼ横ばいとなった。特に冬休みとその前後の利用を確保していくことが来年度の課題といえる。

本館棟利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18	3931	5579	3900	5137	4447	3200	3025	4775	2361	2231	3475	3102	45,163
19	3138	5518	4233	4347	5031	3676	3266	5518	2592	2007	2365	3318	45,009
20	3663	6631	4196	5663	5508	2963	3943	5215	2374	1837	2562	3646	48,201

キャンプ場利用者数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18	77	4933	3651	2470	4062	1798	1155	146	209	97	87	101	18,786
19	167	4653	2799	2080	4178	1954	835	172	207	85	95	215	17,440
20	87	4180	2743	3501	3311	1777	941	188	396	116	119	262	17,621

(3) 成果（新たな取り組み）

本年度における新たな取り組みについて、主なものとしては指導系常勤職員及び非常勤職員各1名の増員、事務室の常時開放、キャンプ場利用時のサイト巡回（特に野外炊飯時の支援など）、キャンプ場内環境整備と財産区林間伐による森林整備、敷地内及び周辺の草刈り等環境整備、本館棟一斉消灯の廃止（各利用団体の自主的な活動を支援）、地域・大学等との連携（共同研究・教職大学院の実習協力・景観整備事業への協力等）、新規主催事業の立ち上げなどが挙げられる。

(4) 主催事業実績

朝霧野外活動センターおよび日本キャンプ協会グループらしい事業展開として、2本の事業を新規に実施した。ひとつは「スケートキャンプ」であり、スケート場の有効利用とフィギュアスケートに親しむ機会の提供を狙ったものである。もう一つは「ホッとキャンプ」であり、不登校児童生徒および引きこもりがちな青年達を対象とし、生活体験を中心とした事業として実施した。

事業種	事業名	実施日	対象	人数
青少年 自然体験事業	冒険キャンプ in 朝霧	7/6(日) 8/2(土)~10(日)	小5~中3	52人
野外教育 指導者養成 講習会	宿泊利用団体担当者研修会	4/18(金),9/7(日) 2/13(金)	利用団体担当者	計314人
	野外活動プログラム実習	4/19(土)	利用団体 担当者・指導者	80人
	長期キャンプ指導者 養成講習会	6/7(土)~8(日) 7/5(土)~6(日) 8/2(土)~10(日) 10/6(土)~7(日)	大学生・短期大 学生・専門学校生等 (全4回参加)	4人
	野外教育指導者養成講習会	2/6(金)~8(日) 3/6(金)~8(日)	教育関係者等	21人 7人
県民 自然体験事業	ちょっといい春感じませんか	4/26(土)~27(日)	家族等	119人
	ステキな秋をあなたに	10/11(土)~12(日)	家族等	111人
	オリエンテーリング in 朝霧	11/29(土)~30(日)	小グループ等	302人
施設開放事業	スケートキャンプ	12/12(金)~13(土) 1/16(金)~17(土) 2/20(金)~21(土) 3/13(金)~14(土)	家族等	40人 39人 45人 45人
	スケートリンク一般利用	11月~3月の 原則毎週日曜日	家族等	計2,070人
	プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日	家族等	計1,116人
	朝霧カーニバル	11/9(日)	一般	2,477人
社会問題に 対応した事業	ホッとキャンプ	3/9(月)~12(木)	不登校児童生徒・ 引きこもりがちな青年	12人



週末に行われたスケートキャンプ



参加者の多かったオリエンテーリング in 朝霧

10. 各種団体等への協力・共催・後援

キャンプ、野外活動の普及・振興に関する事業の後援等を行った。

【共催・後援・協力】

団 体 名	期 間	事 業 名	
(財)大阪YMCA	7/25～8/9	ミネソタキャンプ 2008	後援
高島株式会社	5/31～6/1	WOODS キャンプイベント	後援
(株)学習研究社	8/19～8/22	次世代育成事業「学研キャンプ」	協賛
日刊スポーツ	7/19～7/21	チャレンジ！ファミリーキャンプ	後援
(財)修養団(SYD)	5月～3月	子どもゆめ体験アクションプラン 2008	後援
(財)修養団(SYD)	5月～3月	子どもボランティア体験 アクションプラン 2008	後援
Mt. FUJI エコサイクリング 実行委員会	9/6～9/7	2008 Mt. FUJI エコサイクリング	後援
高知県キャンプ協会	8/17	鷲尾山周辺清掃登山	後援
宮城県レクリエーション協会	7/26～7/28	地球の恵みで遊文化 2008	後援
東京都キャンプ協会	8/18～8/20	小学校教員を対象とする 「教師のための体験塾」	後援
(財)日本教育科学研究所	10/24～10/26	アウトドアゲーム指導法講習会	後援
東京都キャンプ協会	9/27～9/28	平成 20 年度 「東京キャンプフェスティバル 2008」	後援
(財)日本レクリエーション協会	9/13～9/15	第 62 回 全国レクリエーション大会 in いわて	後援
(NPO)環太平洋学生キャンプ	8/2～8/17	第 24 回環太平洋学生キャンプ	後援
秋田県キャンプ協会	9/6～9/7	キャンプインストラクター養成講習会	後援
奈良県キャンプ協会	11/8～11/9	奈良県キャンプ協会 10 周年記念キャンプ	後援
ICF Friends in Japan	12/1	ICFFJ クリスマスワークショップ 2008	後援
鹿児島県キャンプ協会	2/21～22	平成 20 年度アウトドア活動セミナー	後援
(財)大阪府青少年活動財団	3/4～3/5	平成 20 年度「野外活動促進セミナー」	後援



朝霧野外活動センターで行われたキャンプの様子

11. 会議の開催

会 議 名	回数	開 催 日 等
総 会	2	5月24日・3月21日
理 事 会	3	5月24日・3月7日
常 務 会	3	4月24日・1月22日・2月20日
運 営 会 議	7	5月15日・6月19日・9月5日・10月15日・11月26日・12月18日・2月9日
会 計 監 査	1	5月13日
全国事務局担当者会	3	5月25日・11月1日・3月22日
支部ブロック会議	10	5月25日 全ブロック 東京（国立青少年センター） 6月21日～22日 関東ブロック 神奈川県横浜市 6月28日 近畿ブロック 兵庫県神戸市 8月24日 九州・沖縄ブロック 長崎県諫早市 11月1日 全ブロック 長崎県諫早市 11月9日 北海道・東北ブロック 宮城県仙台市 11月22日～23日 中国・四国ブロック 高知県室戸市 2月21日 近畿ブロック 大阪府大阪市 2月21日～22日 中部・北陸ブロック 岐阜県関ヶ原町 3月22日 全ブロック 東京（国立青少年センター）
専門委員会		
総務委員会(常務会)	3	4月24日・1月22日・2月20日
普及サービス委員会	10	4月6日(全国大会実行委員会)・4月8日・5月19日・6月2日・7月7日 9月29日・11月11日・12月15日・2月12日
指導者養成委員会	8	4月18日(朝霧)・6月3日・6月23日・9月5日・10月1日・11月13日 12月5日～6日(朝霧)・2月19日
情報サービス委員会	7	4月21日・6月9日・7月7日・10月20日・12月6日～7日(朝霧) 1月26日・3月16日
調査研究委員会	5	4月22日(長野)・7月18日・11月13日・12月21日(長野)・3月6日
安全管理委員会	6	4月26日(朝霧)・6月2日・7月28日・9月29日・12月8日・2月9日
国際交流委員会	6	4月25日・7月14日・8月31日(上智大学)・9月16日・12月9日・1月27日
基準整備委員会	5	5月2日・7月18日・9月26日・11月28日・1月23日
出版委員会	6	4月30日(狭山)・7月1日・8月5日・9月30日・10月14日・10月28日(編集会議)
朝霧運営委員会	2	7月5日・3月18日
その他の会議		
野外活動団体協議会	1	9月18日(文部科学省)
全国野外活動指導者研修会	1	10月16日～18日(打合せ下見)・1月15日～17日
青年ミーティング実行委員会	9	5月3日・5月14日・5月21日・6月11日・6月27日～28日・7月16日 8月18日・9月10日・10月7日 6月11日・11月4日・1月9日 7月30日 10月1日
山梨県協会設立準備会		
文部科学省委託事業運営会議		
在居団体協議会		
事務局会議	随時	毎週水曜日・9月25日～26日(世田谷区)
朝霧野外活動センター関係	16	所長会：4月11日・5月10日・6月13日・7月15日・9月3日・10月10日 11月19日・1月30日・2月6日・3月3日 外部評価委員会：6月20日・11月10日・3月17日 静青施管理者会：4月23日 静青施協研修会：9月2日～3日・11月9日(地域懇談会) 施設職員合同研修会：12月9日～10日 食堂定期協議会：1月20日 監査：2月12日

* 特に表記のない場合、会場は東京・国立青少年センターです。

稲 村 晃 一(いなむら こういち)氏

青森県キャンプ協会

平成15年より青森県キャンプ協会の設立のため県下を奔走され、平成17年11月、北海道・東北ブロックの各協会の支援を得つつ、全国で44番目のキャンプ協会を設立し初代会長に就任された。「心づくり・体づくり・心温まる社会づくり」をモットーに諸事業、組織づくりを展開される傍ら、海外のキャンプ会議にも数多く出席され、国際社会でも更に深く磨きをかけ、新境地を切り拓いておられる。

長 谷 川 孝(はせがわ たかし)氏

宮城県キャンプ協会

現在は教員として県内の中学校で教鞭を執っておられるが、宮城県松島野外活動センター等社会教育施設では、野外活動の第一人者として青少年に対する指導に当たられた。また、成人対象の施設ボランティア養成や野外活動センターの利用者をサポートする大学生カウンセラーの指導育成に努められた。平成10年宮城県キャンプ協会設立時には事務局長に就任、現在は副会長として協会運営を支えておられる。

斎 藤 明 美(さいとう あけみ)氏

栃木県キャンプ協会

栃木県キャンプ協会発足当初から、協会主催行事の常連であった。協会の運営にも関わるようになり、本協会が創立以来最も注力する「自然生活体験キャンプ」のチーフディレクターを務めるなど、栃木県協会にとって欠くべからざる存在である。平成17年の第15回全国キャンプ大会では、主管県協会の事務局長として実働の中心となり裏方を支えられた。現在は理事長としてエネルギッシュな活動を展開している。

石 橋 典 夫(いしばし のりお)氏

(NPO)埼玉県キャンプ協会

埼玉県キャンプ協会の設立当初から活動に参加され、温厚な人柄と共に料理、ゲームの達人として多くの人々に親しまれ、理事として活躍してこられた。横瀬町役場に勤務の傍ら、自らがキャンプ活動に積極的に関わると共に、熱意を持って町長に働きかけをし、町内の広大な山林に「高原パーク横瀬」という体験型キャンプ場を開設することに尽力された。このキャンプ場は県協会も野外教育の基点として利用している。

三 信 巖(さんのぶ いわお)氏

東京都キャンプ協会

東京都キャンプ協会の変革期において理事として献身的な活躍をされ、現在の協会の方向性と基盤づくりに尽力された。特に研修部のメンバーとして指導者養成に力を注ぎ、キャンプの底辺拡大と指導者の資質の向上に貢献された。グループワークの理論に基づいた、忍耐強い包容力のある指導は、その背景にある多くの経験と共に、我々に大きな影響を与えた。現在は評議員として側面から協会運営を支えておられる。

吉 田 茂 一(よしだ しげいち)氏

石川県キャンプ協会

歌やフォークダンスの指導には氏の多才さが光っており、まさに「歌って踊れる」指導者である。石川県キャンプ協会発足に関わり、協会の基礎を築かれた一人であるが、協会運営や事業などでは常に「縁の下での力持ち」の役割を担われ、きめ細かな心配りは協会随一である。また、広報部、事務局を歴任し、いずれも若い人の背後から支える役に徹しておられる。広報誌「CAMPING いしかわ」の定着に大きな力をつくされた。

富 田 絹 代(とみだ きぬよ)氏

岐阜県キャンプ協会

長年にわたり、岐阜県に於けるキャンプの普及振興に関わり、平成9年の岐阜県キャンプ協会設立に際しては中心的な役割を果たし、その後の協会運営の「縁の下の協力者」として多大な貢献をしてこられた。現在は、協会の会計監査委員長として、また、役員の良い「聴き耳」役として尽力いただいている。平成22年に岐阜県で開催される第20回全国キャンプ大会での野外パーティーの責任者として準備に余念がない。

高 濱 博 行(たかはま ひろゆき)氏

京都キャンプ協会

1983年より京都におけるボーイスカウト運動の重責を担ってこられた。また京都キャンプ協会においても1996年から3年間にわたり事務局運営の任に就かれ、会務全般をまとめられた。この時期は、会員管理をはじめ会費請求などが各支部で行われていた時期であり、多岐にわたる煩雑な業務を滞りなく執行され、今日の礎を創られた。現在まで10年に亘り、監事として協会運営のご指導を賜っている。

CAMP NOSE キャンプカウンセラー育成の取り組み

大阪府キャンプ協会

昭和42年、大阪府総合青少年野外活動センター(CAMP NOSE)が開設され、ここで始められたキャンプカウンセラーの導入による、小グループ活動の推進は全国の青少年野外活動施設運営のモデルとなった。大学生を対象としたカウンセラーの理論研修や技術の修得などは、大学4年間の継続的な活動として位置づけられ、研修と実践を積み重ねる方法を採用し開設以来40年間で4千人を超える人材を育ててきた。

山 田 誠（やまだ まこと）氏

兵庫県キャンプ協会

兵庫県キャンプ協会の発足に尽力され、協会スタート時の理事長を務めその基礎を築き、後に会長として県協会の発展にさらに寄与された。自然教育、野外活動の分野においては研究者としてのキャリアも豊富で、日本キャンプ協会の理事や国際交流委員長を歴任するなど、多方面に渡る分野でキャンプ活動の発展に貢献された。

稗 田 睦 子（ひえだ むつこ）氏

奈良県キャンプ協会

長年に亘りガールスカウトで活動。英国で5年毎に開催されるピークキャンプ大会には、スカウトを引率して1990年から連続4回参加されるなど行動的に活躍されている。また、奈良県キャンプ協会設立に当たっては中心的役割を果たし、発足後は理事に就任。さらに、奈良県下の青少年育成団体で構成される「伸びよう青少年のつどい」の事務局長や会長を務めるなど、幅広く青少年健全育成に携わっておられる。

田 中 一 裕（たなか かずひろ）氏

広島県キャンプ協会

昭和48年広島県野外活動協会主催のモデルキャンプに参加以来、キャンプ指導者資格を生かし、ギター片手に学校、一般、企業等のキャンプ企画・運営・指導に当たってこられた。また、キャンプ指導者の養成や安全で楽しいキャンプの普及にも力を尽くされ、東奔西走の活躍の日々を送っておられる。広島県キャンプ協会設立にあたり、大きな力を発揮され発足後は副会長に就任し現在に至っている。

小 林 勝 文（こばやし かつふみ）氏

島根県キャンプ協会

島根県で戦後最初の青少年を対象にしたキャンプを、比婆道後国定公園吾妻山キャンプ場で実施、以後県内の青少年キャンプの開催に尽力してこられた。県キャンプ協会の前身となる島根県野外活動指導者協議会の設立に参画、その後、県キャンプ協会理事、監事を務められた。文部省の長期キャンプ事業の企画立案にも参画され、県内の指導者のリーダー的存在であり、現在も後進の指導者養成に熱意を持って当たっておられる。

土 居 朋 美（どい ともみ）氏

愛媛県キャンプ協会

長年にわたり、野外活動の振興に努められ、愛媛県キャンプ協会発足の際には準備委員として参画し、設立に向けて献身的な努力をされた。協会発足後は、財務担当理事として能力を発揮されるとともに、リーダー養成にも力を注ぎキャンプ運動の発展に大きな貢献をされた。

吉 武 忠 雄（よしただ ただお）氏

福岡県キャンプ協会

北九州市レクリエーション協会の主力講師として活動を開始。レクカレッジでもキャンプ指導者養成に力を注ぎ、市民サービスの一環としてキャンプや自然体験の普及推進を図る。その後北九州市キャンプ協会、福岡県キャンプ協会設立に尽力された。キャンプに対する情熱、意欲は衰えることなく北九州キャンプ協会事務局長、福岡県キャンプ協会理事、安全委員等を務め後に続く者の範となり目標となる。

酒 井 哲 雄（さかい てつお）氏

(社)日本キャンプ協会

1965年に阿南国際海洋センターを開設。青少年のための海洋キャンプの基礎を築き、多くのキャンパーを導かれたことは日本の組織キャンプ史に残る偉業である。また、国立大学では初の鹿屋体育大学海洋センター開設に中心的な役割を担われ、教授・センター長として海洋プログラムの普及開発に精励された。その後、頤栄短期大学の学長を務める傍ら日本キャンプ協会会長に就任。協会の改革発展に多大のリーダーシップを発揮された。

長 谷 川 純 三（はせがわ じゅんぞう）氏

(社)日本キャンプ協会

筑波大学教授として野外活動講座を担当され、多くの野外活動分野の人材を育成された。大学退官後は日本YH協会の理事長をはじめ野外活動・スポーツ団体の長として幅広くそのリーダーシップを発揮されている。1970年には日本キャンプ協会の常任理事、1994年には副会長に就任され、長きに亘って日本の野外活動を牽引された先導的指導者の一人である。

富 岡 幸 生（とみおか ゆきお）氏

(社)日本キャンプ協会

1983年に日本キャンプ協会の理事に就任以来、常務理事、副会長、監事を歴任された。日本キャンプ協会が任意団体から社団法人へと移行する過程において、組織の整備、財政の円滑な執行、人材の養成・強化に大いに力を発揮された。一方、植物や風景をモチーフとした水彩画を得意とし、自身の作品で個展を開くなど、趣味の領域を逸脱した画風に魅了されるファンも多い。

社団法人日本キャンプ協会 平成20・21年度 役員

名誉会長	酒 井 哲 雄	頌栄保育学院 学院長
顧問	梅 田 利 兵 衛	東京教育大学 名誉教授
顧問	斉 藤 保 夫	元 城西大学 教授
顧問	富 岡 幸 生	(財)日本健康開発財団 専任講師
顧問	中 村 典 男	東京都キャンプ協会 顧問
顧問	長 谷 川 純 三	(社)日本オートキャンプ協会 会長
会長	野 澤 巖	埼玉大学 教授
副会長	鳥 井 信 吾	サントリー(株)代表取締役副社長
副会長	野 間 口 英 敏	東海大学 教授
専務理事	星 野 敏 男	明治大学 教授
常務理事	石 田 易 司	桃山学院大学 教授
常務理事	神 崎 清 一	(財)京都YMCA総主事
理事	尾 崎 裕 美 子	(財)東京YWCA 総幹事
理事	郭 麗 月	かく・にしかわ診療所 医師・心斎橋心理療法センター 代表
理事	川 野 正 雄	岡山県キャンプ協会 理事 (中・四国)
理事	桑 田 千 照	兵庫県キャンプ協会 会長 (近畿)
理事	小 林 孝 之 助	(財)ボーイスカウト日本連盟 事務局次長
理事	後 藤 信 郎	東京都キャンプ協会 事務局長 (関東)
理事	佐 藤 初 雄	(NPO)国際自然大学校 代表
理事	柴 田 俊 明	(財)伊藤忠記念財団 助成事業部長
理事	守 随 純 子	(社)ガールスカウト日本連盟 常任理事
理事	白 垣 伍 男	佐賀県キャンプ協会 理事長 (九州・沖縄)
理事	永 吉 宏 英	大阪体育大学 学長
理事	長 谷 川 孝	宮城県キャンプ協会 副会長 (北海道・東北)
理事	藤 木 正 範	石川県キャンプ協会 理事長 (中部・北陸)
理事	吉 田 大 郎	(社)日本キャンプ協会 事務局長
監事	片 岡 敬 一	(財)日本レクリエーション協会 総務部長
監事	錦 織 一 郎	大阪女学院 法人事務部統括部長

社団法人日本キャンプ協会 平成20・21年度 専門委員

浅 野 修	基 準 整 備	自営業
池 畑 亜 由 美	情報サービス	早稲田大学 非常勤講師
石 井 勝	普及サービス	自営業・山形県キャンプ協会 事務局担当
石 川 裕 光	朝 霧 運 営	おにし青少年野外活動センター 所長
稲 葉 實	朝 霧 運 営	自営業
井 上 透	基 準 整 備	国立諫早青少年自然の家 所長
今 井 正 裕	指 導 者 養 成	(財)大阪府青少年活動財団 事業部企画推進室課長
浦 田 憲 二	朝 霧 運 営	東京成徳大学 子ども学部 准教授
遠 藤 知 里	朝 霧 運 営	常葉学園短期 大学講師
太 田 恒 義	朝 霧 運 営	常葉学園大学 教授
太 田 正 義	情報サービス	(NPO)子ども体験活動サポートセンター 理事長
大 橋 光 雄	安 全 管 理	キャンププランニング 代表
岡 村 泰 斗	調 査 研 究	筑波大学体育科学系 講師
甲 斐 知 彦	調 査 研 究	関西学院大学 教授
片 岡 麻 里	普及サービス	(社)日本ガールスカウト日本連盟 教育部長

金子 和正
神谷 稔
粥川 道子
川村 協平
久保田 康雄
桑田 千照
小森 伸一
嶋結 子
翠尾 由美
鈴木 由美子
高野 孝子
高橋 伸
高見 彰
高山 昌紀
田邊 直正
月橋 春美
土谷 隆
鶴川 高司
時本 学
時安 和行
富山 浩三
長井 せつ子
中島 安貴輝
中村 正雄
永吉 英記
野口 和行
野口 透
畠中 彬
濱谷 弘志
林綾 子
林健児 郎
林寿 夫
針ヶ谷 雅子
平田 裕一
平野 吉直
福田 年之
藤井 三弥子
眞木 潔
水沢 利栄
森園 忠勝
師岡 文男
山田 紗也子
吉松 誠一郎
渡邊 仁

出版
常務・運営会議
安全管理
朝霧運営会議
情報サービス
基準整備
国際交流
国際交流
指導者養成
指導者養成
国際交流
国際交流
安全管理
普及サービス
出版
調査研究
国際交流
普及サービス
国際交流
指導者養成
指導者養成
安全管理
情報サービス
指導者養成
調査研究
指導者養成
普及サービス
安全管理
指導者養成
調査研究
情報サービス
基準整備
国際交流
普及サービス
調査研究
情報サービス
情報サービス
普及サービス
安全管理
普及サービス
国際交流
情報サービス
基準整備
出版

東京家政学院大学 児童学科 教授
田上税務会計事務所
北翔大学 准教授
山梨大学 教授
国立花山青少年自然の家 次長
兵庫県キャンプ協会 会長
東京学芸大学 教育学部 講師
東京YWCA 幹事
(財)児童育成協会 こどもの城 主任指導員
YMCAスポーツ専門学校(横浜 YMCA) 非常勤講師
(NPO)エコプラス 代表理事
国際基督教大学 講師
関西国際大学 教授
アソベンチャーライフジャパン 代表
(株)旬報社 企画編集部 次長
宇都宮短期大学 准教授
東京YMCA 統括
(有)「掌~Tanagokoro」代表取締役
(財)ラボ教育センター 理事長
中京女子大学 准教授
大阪体育大学 体育学部 生涯スポーツ学科 教授
(NPO)ワークショップF r a u 共同代表
日本大学芸術学部 教授・アート&グラフィック 代表
大東文化大学 スポーツ・健康科学部 准教授
国土舘大学ウェルネス・リサーチセンター 助手
慶応義塾大学 体育研究所 専任講師
川崎市黒川青少年野外活動センター 所長
(財)関西テレビ青少年育成事業団 顧問
(財)日本アウトワード・バウンド協会
びわこ成蹊スポーツ大学 専任講師
sync-nature 代表
(株)野外計画・(株)PAJ 代表取締役
学習院大学 非常勤講師
中京女子大学 教授
信州大学 教育学部 教授
朝日新聞厚生文化事業団 事業課長
(株)名古屋東急ホテル CS推進室マネージャー
松山市役所
福井大学 教育地域科学部 准教授
大阪人間科学大学 准教授
上智大学 文学部 保健体育研究室 教授
地鶏炭火焼きとりとり亭伊勢崎本店 店長
佐賀新聞社 デジタル戦略チーム
明治大学 経営学部 非常勤講師

事務局スタッフ

事務局長	吉田 大郎	課 長	秋山 千草	主 幹	高瀬 宏樹
主 査	戸室 勇児	主 事	金山 竜也	主 事	吉野 宏美

都道府県キャンプ協会一覧(平成20年度)

名 称	設立年月	ホームページ
北海道 キャンプ協会	1992 年 6 月	
青 森 県 キャンプ協会	2005 年 11 月	
岩 手 県 キャンプ協会	1993 年 5 月	http://iwate.camping.or.jp/
宮 城 県 キャンプ協会	1998 年 10 月	
秋 田 県 キャンプ協会	1994 年 4 月	
山 形 県 キャンプ協会	1987 年 4 月	
福 島 県 キャンプ協会	1981 年 1 月	
茨 城 県 キャンプ協会	1998 年 10 月	http://ibaraki.camping.or.jp/
栃 木 県 キャンプ協会	1988 年 11 月	http://tochigi.camping.or.jp
群 馬 県 キャンプ協会	1967 年 9 月	http://gunma.camping.or.jp
NPO 法人 埼玉県キャンプ協会	1985 年 7 月	http://saitama.camping.or.jp
NPO 法人 千葉県キャンプ協会	1984 年 6 月	http://chiba.camping.or.jp
神奈川県キャンプ協会	1987 年 4 月	
東 京 都 キャンプ協会	1981 年 10 月	http://www.camp-tokyo.org
新 潟 県 キャンプ協会	1977 年 4 月	http://niigata.camping.or.jp/
富 山 県 キャンプ協会	1987 年 6 月	http://toyama.camping.or.jp/
石 川 県 キャンプ協会	1991 年 5 月	http://ishikawa.camping.or.jp/
山 梨 県 キャンプ協会	2009 年 3 月	
長 野 県 キャンプ協会	1998 年 2 月	
岐 阜 県 キャンプ協会	1997 年 7 月	http://gifu.camping.or.jp/
静 岡 県 キャンプ協会	1998 年 4 月	http://homepage.mac.com/camping_shizuoka/
愛 知 県 キャンプ協会	1983 年 5 月	http://www5a.biglobe.ne.jp/~aca/
三 重 県 キャンプ協会	1987 年 5 月	
滋 賀 県 キャンプ協会	1987 年 3 月	
京 都 県 キャンプ協会	1980 年 6 月	http://kyoto.camping.or.jp/
大 阪 府 キャンプ協会	1992 年 2 月	http://www.osaka-camping.jp/
兵 庫 県 キャンプ協会	1988 年 4 月	http://hyogo.camping.or.jp/
奈 良 県 キャンプ協会	1998 年 6 月	
和歌山県キャンプ協会	1998 年 6 月	
鳥 取 県 キャンプ協会	2004 年 4 月	
島 根 県 キャンプ協会	1978 年 6 月	
岡 山 県 キャンプ協会	1998 年 5 月	http://okayama.camping.or.jp/
広 島 県 キャンプ協会	1995 年 11 月	http://www.hiroshima-camping.jp/
山 口 県 キャンプ協会	1969 年 4 月	http://www.yamacan.net/
徳 島 県 キャンプ協会	1997 年 10 月	
香 川 県 キャンプ協会	1982 年 8 月	http://kagawa.camping.or.jp/
愛 媛 県 キャンプ協会	1994 年 5 月	http://ehime.camping.or.jp/
高 知 県 キャンプ協会	1991 年 8 月	
福 岡 県 キャンプ協会	1989 年 4 月	
佐 賀 県 キャンプ協会	1994 年 10 月	
長 崎 県 キャンプ協会	1998 年 11 月	http://nagasaki.camping.or.jp/
熊 本 県 キャンプ協会	1979 年 7 月	http://kumamoto-camping.jp/
大 分 県 キャンプ協会	2005 年 1 月	http://oita.camping.or.jp/
鹿児島県キャンプ協会	1976 年 5 月	
沖 縄 県 キャンプ協会	1984 年 7 月	



キャンプには持って行かない慣れ・油断

【小椋正人さん：2008年度キャンプ安全標語・一般の部 最優秀作品】